



公益社団法人
滋賀県理学療法士会
ニュース

No. 227(2025-8)

<http://www.shiga-pt.or.jp>

2025.8.1

発行者：(公社) 滋賀県理学療法士会

〒527-0145

滋賀県東近江市北坂町 967

びわこリハビリテーション専門職大学内

編集者：西村 謙太郎 (公立甲賀病院)

服部 有純 (公立甲賀病院)

山添 樹 (公立甲賀病院)

印刷所：(有) 東呉竹堂 (ひがし印刷)

第 40 回滋賀県理学療法学会を終えて

南草津病院 段上 靖治

第 40 回滋賀県理学療法学会が 6 月 22 日に開催いたしました。運営スタッフをはじめ、参加者の皆様にはご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

今年のテーマは『原点回帰～臨床から学ぶこと～』としました。情報が一人歩きしていく昨今の情勢を踏まえ、理学療法のあり方を再度考えてもらおうと思い 1 年間にわたり準備を行なってきました。結果、多数の方にご来場いただき、士会員に求められているものと合致していたと確信いたしました。

教育演題において、運動器・中枢神経疾患を専門とされている皆様方にご登壇いただきました。講演の中で、日々の臨床と科学的根拠をどのように掛け合わせていくのか、どのような視点で評価ならびに理学療法を行っていくのか、多方面から知識を深めることができたのではないかと考えます。

市民公開講座では、産業理学療法についてご講演をいただき、講演後、参加者から講師へ直接問い合わせがあるなど、士会員同士の繋がりを深める時間となりました。

今回は、前年の取り組みを引き継ぎ、演題登録システムの採用、抄録の電子化を行い、会員の利便性向上を図りました。また、生涯学習部・障がい者スポーツ支援部との共同企画、びわこリハビリテーション専門職大学の学生によるポスター発表も継続して行いました。これにより様々な年代が参加できるように運営を行い、メイン会場以外のブース也大盛況であり、活発な意見交換ができたことは非常に有意義だったと思います。学会にご協力いただいた各部の方々にはこの場をお借りし御礼申し上げます。

「原点回帰」この言葉が示すように、基本に戻り、流行りに流されず自分自身が何のために理学療法を提供しているのか、この学会に参加したことで見つめ直すきっかけになれば幸いに思います。

今後皆様にとって、最適な理学療法が対象者の方々に提供できることを願っております。



びわ湖マラソン 2025 ボランティア 参加してきました【公益事業報告】

皇子山陸上競技場をスタートし烏丸半島をゴールに開催されるびわ湖マラソン 2025 の医療救護スタッフとして、当士会から有志を募り、10名で参加してきました。今年度は例年の救護所活動に加え、新たに救護車での活動も行いました。



三日月知事も
参加されていました！



初めてマラソンのボランティアに参加させて頂きました。担当は、ゴール地点の救護所を担当させて頂きました。脱水や低体温など、スポーツ現場ならではの症状に対して、普段の臨床現場ではあまり経験できないことを体験する事ができました。普段は、球技に関わる事が多いのでマラソンを通して知見を広げる事ができました。7000 人という参加者に対して迅速に対応することが求められ、PT として、その場で何ができるのかを考え行動する経験は今後の活動にも活かして行きたいと思いました。

＜救護所 宮野 瑞樹＞

昨年に続き 2 回目のボランティア参加となります。前回は自転車 AED 隊でしたが、今回は救護所で活動させて頂きました。天候に恵まれ、マラソン日和だったと思います。ゴール直後で、脱水や低体温、足を攣る方が多く見受けられました。救護をさせて頂いた際に、ランナーの皆さんからは感謝のお言葉をいただき、すごくやりがいを感じました。来年も是非参加したいと思います。

＜救護所 徳田 一樹＞

昨年に引き続き、2 回目のマラソンボランティアでした。今年は第 2 救護所での活動で、医師は待機しておらず、自らの判断で動く必要があり、緊張感がありました。活動時間が短く、対応したのは 3 名でしたが、補水やアイシング対応など、昨年の経験を活かすことができたと思います。間近で選手の応援ができ楽しさもありました。来年も是非参加したいです。

＜待機救護車 辰巳 麻美＞

はじめてマラソン大会を間近で体験させていただきました。30キロ地点で痛そうに歩かれている方も多かったのですが、42.195キロを走ろうと決心された方に畏敬の念で、応援にも熱が入りました。救護所では痙攣の対応が多く、救急搬送になられた方もあり、現場での臨機応変な対応を学ばせていただきました。全身筋肉痛になりましたが、また来年も来たいと思いました。

＜救護所 森 美穂＞



今回が初めての参加で至らない所もあったと思いますが、運営スタッフさんを中心に楽しくチーム活動する事ができました。医師、看護師の活躍を現場で見る機会となり、理学療法士としてとても勉強になりました。また、救護のない時間帯はみんなでランナーの応援をしたり、自衛隊の車を拝見させていただいたり、とても貴重な経験をする事が出来ました。びわ湖マラソン終了後には前回大会よりも怪我人等が少なかったとの報告も受けて安心しました。

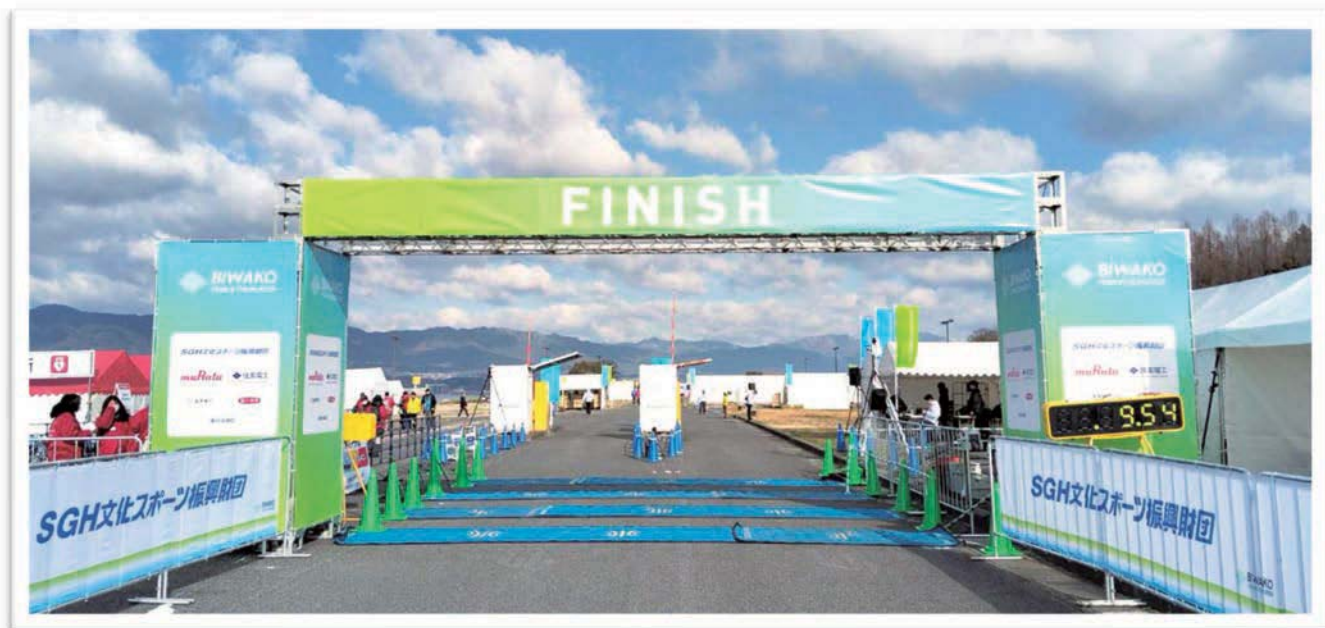
＜待機救護車 西野 貴博＞

びわ湖マラソン大会(2025年3月9日開催)に参加させていただきました。マラソンランナー様の体調不良や怪我などを中心に対応しサポートをさせて頂きました。大変貴重な経験をさせて頂きました。

＜待機救護車 岸本 美地彦＞

初のトレーナの活動でしたが、ランナーの応援も楽しくさせていただき、負傷された方の対応も、自分の知識を活用して、再Ranに送り出すことができ、貴重な体験ができました。スポーツ分野は難しいけれど、おもしろい分野だと感じました。一緒に活動していた、医師も看護師も学生さんもみなさん話やすく、とても有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。

＜救護所 田村 峰香＞

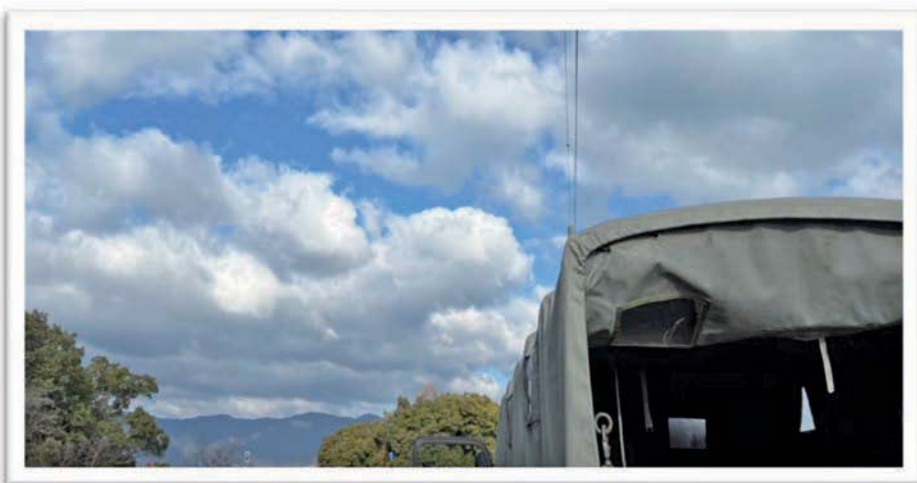


今回、待機救護車にて救護活動を行いました。担当したのは 25km 付近での救護活動でした。ランナーの方々の疲労が溜まってくるポイントなのか、多くの救護活動に追われました。特に大きな怪我をされたランナーはいなかったので、ほっとしています。来年も機会があれば是非参加したいです。

＜待機救護車 大伴 賢哉＞

私は救護所 7(33km 付近) と最後尾救護車でのボランティアで、救護所を軸に最終ランナーに続くような位置でした。30km の壁を超えて疲労がピークになる辺りでしたので足が攣るランナーが多く、救護所に運ばれる前にコース近くでリカバリーサポートをさせていただきました。コース復帰していくランナーに「ありがとう！走れるようになったわ！」と言われ嬉しかったです。完走後に対応したランナーからも感謝の言葉や、疲労回復に向けてのアドバイスを求められ改めて PT のニーズも確認できた良い大会でした。

＜待機救護車 村崎 陽一＞



2025年度 スポーツ・学校保健支援部第 1 回研修会 活動報告

スポーツ・学校保健支援部 部長
おした整形外科医院 土山 裕之

2024年より「国民体育大会」は「国民スポーツ大会(国スポ)」へと名称が変更され、2025年には滋賀県で開催されます。滋賀県での開催は、昭和56年の第36回国民体育大会(びわこ国体)以来、実に44年ぶりとなります。

滋賀県理学療法士会では、2016年に「国体支援部(現:スポーツ支援部)」を発足し、国スポに向けて選手支援ができる人材の育成を目指して活動を行ってきました。これは、競技力の向上およびスポーツ外傷の予防を目的とした選手サポート体制の強化を目的とした取り組みです。

その一環として、2025年度スポーツ・学校保健支援部第1回研修会を2025年5月11日(日)に大津市勤労福祉センターにて開催し、滋賀県理学療法士会会員16名にご参加いただきました。

昨年度までは、スポーツ外傷概論やトレーニング概論といった基礎的な内容についてはオンデマンド配信にて学習いただき、対面研修ではテーピングや応急処置、ウォーミングアップを中心とした実技指導を実施してきました。今年度はさらに選手個々に合わせたサポートを目的に、コンディショニングやケア方法、ファンクショナルトレーニングに基づいた実践的なトレーニング方法の習得を図り、テーピングでは

昨年度の足関節に加え、肩関節や膝関節に対しての方法の習得も図っています。

今回の研修では、選手へのコンディショニングからトレーニング、テーピングまでの一連の流れを想定した実技練習を実施し、実際のスポーツ現場をイメージしながら取り組むことができました。すでに現場で活動されている参加者も多く、日々直面する課題について活発なディスカッションが行われ、より実践的な知識と技術の向上につながる有意義な研修会となりました。

スポーツ現場での活動経験がない方や、現場に出ることに不安を感じている方も少なくありませんが、まずはこのような対面研修にご参加いただき、共に学びを深めていただければと考えております。今後も、会員の皆様とともにスポーツ現場での活動ができることを楽しみにしております。

スポーツ・学校保健支援部の活動に関する
問い合わせ先

おした整形外科医院 土山 裕之
e-mail: pt.shigakokutai@gmail.com





令和 7 年 3 月 11 日 滋賀 JRAT が滋賀県と協定を締結しました！

このたび滋賀 JRAT は、滋賀県と災害時リハビリテーション支援に関する協定を締結しました。この協定締結により、これまで以上に迅速で円滑な支援体制を構築することができるようになりました。

これまでも滋賀 JRAT は、災害時に必要なリハビリテーション支援を行ってきました。しかし、行政との公式な連携体制がなかったため、現場での調整や情報共有に時間がかかることがあり、支援の開始に課題がありました。

今回の協定締結により、災害発生時には滋賀県から正式な要請を受けて、滋賀 JRAT が速

やかに活動を開始できる仕組みが整いました。県の災害対策本部とも連携し、必要な情報を共有することで、より効果的で切れ目のないリハビリテーション支援が可能となります。

また、活動時の移動に必要な支援、医療機器・福祉機器の供給、支援チームの派遣に要する経費なども、県の協力を得られる体制となりました。

今後に向けて

今回の協定は、滋賀 JRAT が県内の災害リハビリテーション支援の中核を担うことを意味しています。被災された方々が、より早く安心して元の生活に戻れるよう、今後も関係機関と連携しながら活動を強化してまいります。

JRAT 隊員募集中です。コア隊員、JRAT 災害支援緊急スタッフに興味のある方は 2 次元コードからご登録ください！

問い合わせ先：shigajratzimu(a)gmail.com
(a) を@に置き換えてください。



今年も会員の皆さんからの写真を大募集し、写真コンテストを開催いたします。
応募作品のテーマは自由ですので、奮ってご応募ください。

グランプリ
1作品

準グランプリ
1作品

優秀賞
5作品

参加賞あり

滋賀県理学療法士会 厚生部主催

第14回 写真コンテスト

作品テーマ 設定なし

応募作品のテーマは自由ですので、お気軽にご応募ください。
応募作品には、必ず題名をつけていただくことを条件とします。

大募集!!

応募方法

デジカメ・スマートフォンなどで撮影したものを下記までお送りください。

件名を“写真コンテスト”とし、①写真題名、②氏名、③所属、④電話番号を記入してください。

応募先: ptshiga_kouseibu@yahoo.co.jp (ptshiga の後はアンダーバー)

締め切り日 2025年10月13日(祝・月)

審査方法

会員による Web 投票を行い、各賞の表彰を行います。

応募に際しての注意事項

- ・応募は1人につき2点までとします。
- ・被写体の肖像権侵害等の責任は負いかねます。
- ・全応募作品の使用権は滋賀県理学療法士会に帰属します。
- ・応募者本人が撮影し、すべての著作権を有しているものに限りします。
- ・公共性にそぐわないもの・不鮮明なもの等は、応募されても無効とします。
- ・応募数が一定数に満たない場合は、コンテストを中止する場合があります。

お問い合わせ先

厚生部(ptshiga_kouseibu@yahoo.co.jp)までメールでお問い合わせください。



第13回グランプリ



第12回グランプリ



第11回グランプリ

第12回 施設対抗フットサル大会 参加チーム募集

今年も施設対抗フットサル大会を開催するにあたり、参加チームを大募集します。

前回大会同様に**今大会も資格を有する審判員を外部から招き、厳正にレフリングをしていただく形を取り、特別ルールでの開催**となります。

皆さんで楽しむとともに士会員同士や他職種との良い交流の場になれば幸いです。詳細は以下の通りです。

【日 時】 2025年11月9日(日) 10:00～17:00 (9:30～開会式)
※少雨決行ですが、荒天の場合は順延予定。順延日は予約の都合上未定。

【場 所】 甲賀高分子スタジアム(フットサル滋賀石部スタジアム)
湖南市石部北一丁目2-1677 TEL:0748-77-5170



【駐 車 場】 駐車スペースに限りがあり、**会場駐車場への駐車台数については、チームごとに制限を設けます**(台数は参加チーム数によって変動しますので、後日お伝えします)。それ以上の台数の駐車については、近隣の指定駐車場をご案内させていただきます。各チーム乗り合わせでのご参加、もしくは各チーム内で申し合わせの上、近隣指定駐車場のご利用をお願い致します。

【中止基準】 順延日が荒天で開催できない場合、中止とします。

【参加要項】

- ◆チーム構成について、**滋賀県理学療法士会会員をプレイヤーの代表者**としていただければ、OT・STの方々でも参加可能です。また、医師・看護師・介護士など施設スタッフの参加も認めます。
- ◆1施設から1チームのみ(5人以上)の参加とさせていただきます。グループ施設混合チーム、近隣施設混合チームでも構いません。
- ◆男性、女性、どちらでも参加して頂けます。男女混合やシニア混合チームはフィールドに6人出場可能。
※今大会ではシニアを50歳以上と規定します。なおシニアの方は腕に腕章を付けていただきます。
- ◆**参加費は1人500円**です。**※直前のキャンセルでも運営上支払っていただきます。**
- ◆大会運営およびレクリエーション保険加入の関係上、メンバー表・同意書の提出をしていただきます。エントリー時に詳細をお伝えします。
- ◆競技中の傷害補償については、三井住友海上レクリエーション傷害補償プラン(入院日額5,000円・通院日額3,000円)を利用します。エントリー後にお渡しするパンフレットをご確認後、補償内容が不十分であれば、各チーム独自でより充実したスポーツ保険等に参加されることをご検討ください。
- ◆参加いただいたチームすべてに参加賞をお渡しします。



前回集合写真

【大会特別ルール】

基本的には資格審判員のジャッジに従ってゲームを進行していきます。未経験者や女性の参加者も多数おられることから厳正な審判に加え、大会特別ルールを設けて開催します。以下に主な特別ルールを示します。

- ◇ 1 試合ファール3回で相手チームへ1得点加点（以後1ファールにつき1得点加点）
- ◇ 女性・シニア選手の得点は2点
- ◇ スライディング全面禁止
- ◇ 男性→女性へのボディコンタクト禁止
- ◇ 無謀なロングシュート禁止

※本来のルールに加え特別ルールもファール対象です。審判員のジャッジに対しては必ず従ってください。審判員および選手に対する威圧・暴言・侮辱行為はカード対象です。従っていただけない場合は、大会途中でも個人およびチームを失格とする場合があります。

【交流イベント】

交流イベント(ウォーキングフットボール:わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ2025のデモンストレーションスポーツ)の開催を予定しています。各チームから数名選出していただき混合チームで競技します。当日に詳しい競技説明を行います。成績優秀チームには賞品をご用意しています。

今回のフットサル大会に参加して頂ける施設の代表者は、9月30日(火)までに E-mail にてお申し込みください。ご質問等あれば遠慮なく下記連絡先へお問い合わせください。

施設代表者は、大会概要（特別ルールや参加費、駐車場、同意書、レク保険など）を必ず各メンバーへ周知していただくようお願いします。

また、今後の大会運営のお手伝いいただくスタッフを募集しています。優勝チームには、来年の大会運営のお手伝いをお願いする予定ですので、あらかじめご了承ください。

申し込み先：y.maegawa.saishiga@gmail.com（済生会滋賀県病院 前川優輝宛まで）

※必ず上記アドレスからのメールが受信できるように設定してください。提出書類等を添付し返信しますので、作業環境のある端末（パソコン等）からの申し込みをお願いします。

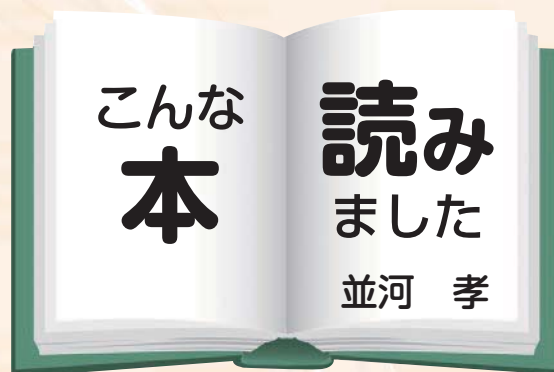
また、前日夜・当日朝に荒天による中止連絡を受けられる連絡先（メールアドレスもしくは携帯電話番号）もお知らせください。

お問い合わせ先：TEL: 0748 -55 -1175(代) 東近江市蒲生医療センター リハビリテーション科 奥田

申し込み締め切り： 2025 年 9 月 30 日(火)



前大会競技風景



本の名前：『軽度認知障害がわかる本』

著 者：朝田 隆（あさだたかし：医師） 価 格：1,500 円（＋税）
出版社：講談社

ついに今話題の『軽度認知障害』の本が出たという感じで待望の本です。認知症と診断されると逆戻りはしないと言われていますが、その手前のグレーゾーンである軽度認知障害の状態であると、何もしないとそのまま進むのですが、何らかの対策をした人では改善する人が出てきたので最近注目されているのです。その手前のグレーゾーンに対する教科書的な本の発刊です。認知症の人の増加は予想より緩やかになって減少してきたのですが、その分軽度認知障害の人が増えてきている。認知症の減少には生活への対応が進んでいるからで、喫煙率が減少や健康意識が高まっている等が挙げられている。高齢者の3～4人に一人は認知症か軽度認知障害になると推測されているので、誰にとっても身近な変化であり「ああ、来たか」と受け止め対策を始めていきたいと思いますと書かれている。一般に受診に結びつくには平均4年かかると言われている。改善する方法があれば解決したり、早期の段階でしか使えない新薬が使える可能性があったり、また進行を遅らせることもできる。まず専門医（認知症サポート医・もの忘れ外来・認知症疾患医療センター）の受診が大切であると書かれている。今では早期診断が可能でアミロイドPET 検査や脳脊髄液検査で脳内のアミロイドβのたまり具合がわかり、早急の対策がとれる。対策としては、生活改善・薬物療法・認知トレーニング等があり、組み合わせることが必要である。それよりも少しでも早く始めることに意味がある。特に生活改善は今日からでも始めて頂きたい。生活改善は予防にも効果的で、本日から始めることもできる。深い睡眠中に脳内のゴミ（アミロイドβ）は片づけられると言われている。質の良い睡眠をとることから日頃の運動まで気が付いた人から実践して頂きたい。デュアルタスク等の脳のリハビリテーションは我々の専門分野でもある。高齢者のリハを担当する人には是非ご一読頂きたい一冊である。



若い人にも理解しやすいように丁寧に説明されているので是非ご一読ください。

滋賀県理学療法士会問い合わせ先一覧

(a) は @ に置き換えてください

事務局 公文書発行 発送物関係 ホームページ原稿受付

jimukyoku(a)shiga-pt.or.jp 担当：本田 TEL/FAX: 0749-46-0001

※お問い合わせ等は、できる限りメールをお願いいたします。

※会員への配布物については、ブラストメールにて対応しますので、PDF でお送りください。

入会、異動、休会

異動届は協会ホームページ（マイページ）上から行うことになっています。

<http://www.japanpt.or.jp/>

財務関係

keirijim(a)shiga-pt.or.jp 担当：滋賀医大 平岩、川波 TEL/FAX 077-548-2670

士会ニュース原稿受付 広報部

shigaptnews(a)yahoo.co.jp 担当：公立甲賀病院 西村

介護報酬部

ptkaigohokennbu(a)yahoo.co.jp 担当：ナースステーションあうんケア栗東 片岡

診療報酬部

namie(a)kou-sei-kai.or.jp 担当：琵琶湖中央リハビリテーション病院 浪江

※お問い合わせ等の際には、メールの件名に「診療報酬部への問い合わせ」と明記してください。

生涯学習関係 生涯学習管理部

h-kawasaki(a)pt-si.aino.ac.jp 担当：びわこリハビリテーション専門職大学 川崎
TEL 0749-46-2311

厚生事業関係 厚生部

ptshiga_kouseibu(a)yahoo.co.jp 担当：東近江市蒲生医療センター 奥田

公益事業部

shigapt_k_mk2016(a)yahoo.co.jp 担当：甲賀市立信楽中央病院 岸本

障がい者スポーツ支援部

ptshiga.parasports(a)gmail.com 担当：医療法人かさはら医院 石井

教育部

ptkyouikubu(a)yahoo.co.jp 担当：大津赤十字病院 中川

編集後記

今年の夏はいつもの夏より長いです。

適度に休みながら体調を崩さないように乗り切りましょう！

夏太りが怖い中年男性からの残暑お見舞いです。

事務局便り

情報の更新をお願いします！

異動や退職等で住居を異動されたにも関わらずマイページの変更を行っていない方がおられます。郵送物が届かない等のトラブルがございます為、職場・住居を異動された場合は必ずマイページの更新をお願い致します。

情報の更新で不明な点がある場合は日本理学療法士協会へ問い合わせをお願い致します。

士会からの郵送物の配送先について

士会からの郵送物に関して職場ではなく自宅への配送に変更を希望される方がおられます。県士会では職場を登録していただいております方は郵送料の観点から原則として職場へ郵送することになっております。また、職場の登録を削除されますと生涯学習の分野において支障が出る可能性がございます。

会員の皆様には不便をお掛け致しますが、職場への郵送となります事にご理解とご協力をお願い致します。

会員個人へのメール配信開始のお知らせ

昨年よりブラストメールを活用し県士会の情報を会員の皆様へ配信させていただいております。配信を希望される会員の方はマイページのメールアドレスの登録をお願い致します。ご理解とご協力をお願い致します。

揺るがない医療人へ



びわこリハビリテーション
専門職大学

BIWAKO PROFESSIONAL
UNIVERSITY OF REHAB



〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町967 TEL:0749-46-2311

<本学HP>